

学習指導案 略案様式（特別の教科 道徳を除く）

2年1組		指導者	川波 蒼	教科等	国語
単元	単元名等	紙コップ花火の作り方／おもちゃの作り方をせつめいしよう			
	目標	評価規準	← ※どちらかを選択し、 <u>で囲ってください。</u>		
	知識及び技能	知識・技能	○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができるようにする。(知(2)ア)		
	思考力、判断力、表現力等	思考・判断・表現	○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができるようにする。(思B(1)ウ) ◆時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができるようにする。(思C(1)ア) ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができるようにする。(思C(1)ウ)		
	学びに向かう力、人間性等	主体的に学習に取り組む態度	○進んで文章の中の語や文を選び出したり、事柄の順序に沿って分かりやすく伝える書き表し方を工夫したりしようとする。(学びに向かう力、人間性等)		
	単元の学習展開（全14時間）				
	導入	□単元の学習計画を立て、学習の見通しを持つ。			
展開	□「紙コップ花火の作り方」の文章について、必要に応じて本文を読み返したり、話し合ったりすることで、順序をわかりやすく説明するための言葉や工夫を見つける。				
	□「紙コップ花火の作り方」の学習をいかして、構成を考えながら説明する文章を書く。				
終末	□単元全体の学習を振り返り、物事を説明するときに分かりやすくなるような文章の書き方や、言葉の使い方を確かめる。				

本時 (2/全14時間)	ねらい	順序が分かりやすくなる文章の工夫について、 段落ごとに切り離れた文章を「まず」や「つぎに」などの、文や出来事の順序を表す言葉に着目して、 順番に並び変える活動を通して、 文や出来事の順序を表す言葉をとらえることができるようにする。 【◆思考・判断・表現 ノートやロイロノート上の記述】			
	学習過程	「めあて」 正しい順番になるように、文章を並び替えよう。			
		「課題」 何を手掛かりにするとよいか。			
		「まとめ」 文や出来事の順序を表す言葉を手掛かりにするとよい。			
		「振り返り」 ・順序を表す言葉を手掛かりにすると、内容が分かりやすい文章になることがわかった。 「まず」「つぎに」「それから」「さいごに」「これで」があると、ならべやすかった。			
	努力を要する状況の児童に対する手立て	【予想されるつまずき】 ・何を手掛かりにするとよいか分からない ・漢字の読みが分からず、文章がスラスラ読めない		【必要な支援・手立て】 ・ほかの児童と交流する場を設定する ・事前に読みを書く	

